

# 胆道閉鎖症，新生児黄疸と血清 AFP 値

東京大学小児外科 本 名 敏 郎

## I. はじめに

前年度の報告書において、乳児閉塞型黄疸に於ける血清アルファフェトプロテイン値（以下、AFP）測定の意味について報告したが、今回は胆道閉鎖症の術前血清AFP値と、肝門部病型、術後胆汁流出の良否、術前肝機能との相関について検討し、さらに新生児生理的黄疸時の血清AFP値を測定し、検討したので報告する。

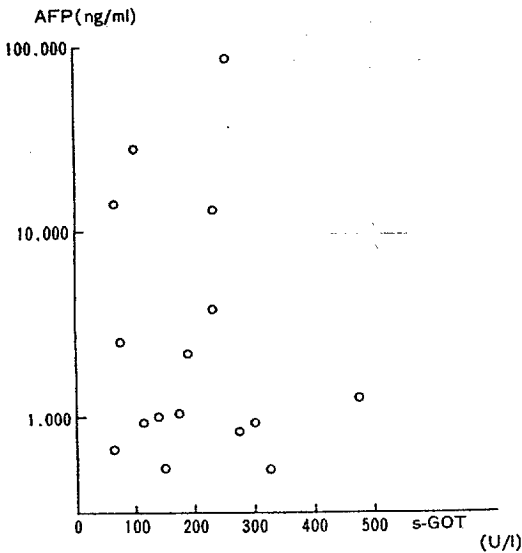
## II. 対象

胆道閉鎖症例については、術前血清AFP値と、肝門

表 1 AFP and Anatomic Type of Biliary Atresia

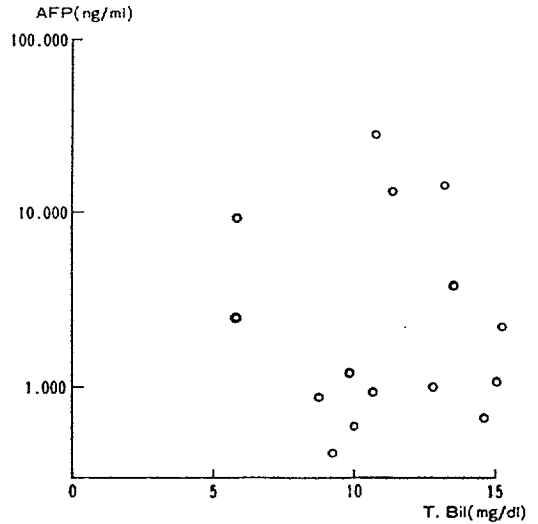
AFP	Anatomic Type	
	Correctable	Incorrectable
Above Normal	2 cases	16 cases
Within Normal	2 cases	4 cases
Total	4 cases	20 cases

AFP and serum GOT



Relationship between serum AFP and Transaminases in Biliary Atresia

図 2



Relationship between serum AFP and Total Bilirubin levels in Biliary Atresia

図 1  
AFP and serum GPT

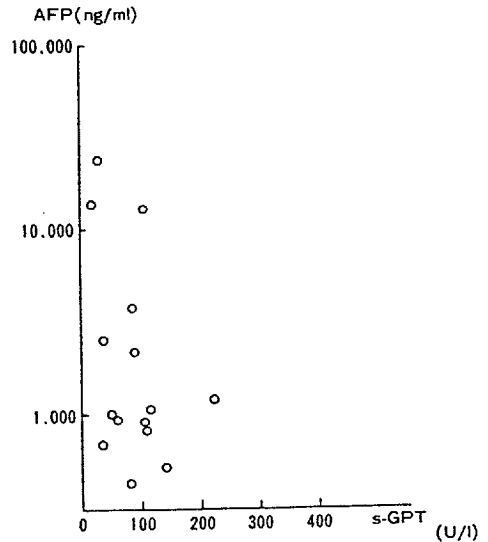


表 2 AFP and Postoperative Bile Flow in Patients with Biliary Atresia

AFP	Postoperative Bile Flow	
	Good	Poor
Above Normal	8 cases	9 cases
Within Normal	2 cases	3 cases
Total	10 cases	12 cases

部病型 (24 例), 肝門部空腸吻合術 (外瘻型) 後の胆汁流出状況 (22 例), 術前肝機能—総ビリルビン, GOT, GDT (15 例) との関連を検討した。

新生児生理的黄疸例については, 出生後 3~5 日で, 体重 2,500 g 以上のものについて, 血清 AFP 値と総ビリルビンを測定し, その相関関係を検討した。

III. 結果

胆道閉鎖症を肝門部の状態により吻合可能型と不能型とに分け, 血清 AFP 値と比較したものが表 1 である。肝門部病型により血清 AFP 値に差があるとは言えないが, 可能型では 10,000 ng/ml を越えないのに対し, 不能型で高値を示した 16 例中 9 例が, 10,000 ng/ml 以上の値を示した。

表 2 では, 術後の胆汁流出状態と術前の血清 AFP 値とを比較したが, 胆汁流出良好群と不良群との間に血清 AFP 値の差は見られず, 術前の血清 AFP 値は, 術後胆汁流出の良否には何ら影響を与えないと考えられる。

新生児生理的黄疸例の血清 AFP 値は 13,000~370,000 ng/ml におよび, この時期 (生後 3~5 日) の血清 AFP 正常値が不明のこともあって, これらの値が正常か否かが明確ではないが, 我々の求め得た正常範囲を大きく越えることはないと考えられる。生理的黄疸では, 血清 AFP 値と総ビリルビン値は図 3 の如く, よく相関している。この機序については不明であるが, 高 AFP 血症と高ビリルビン血症の間に Time lag のない点などから, 肝細胞の機能的未熟性に高 AFP 血症, 高ビリルビン血症

双方の原因があると考えられる。

IV. 結論

乳児胆汁うっ滞における高 AFP 血症は, その基礎疾患種類とは無関係で,  $\alpha_1$ -アンチトリプシン欠乏症を除きこの時期の胆汁うっ滞を示す疾患は AFP 合成を促進するものと考えられる。よって血清 AFP 値の測定は, 乳児閉塞型黄疸の鑑別に意義を持つとは考えられない。

胆道閉鎖症例の血清 AFP 値は, 肝門部病型, 術前肝機能, 術後胆汁流出状況には関連を持たない。

新生児生理的黄疸の血清 AFP 値は血清総ビリルビン値とよく相関し, 肝細胞の機能的未熟性に原因すると考えられる。

AFP and Physiological Jaundice in Neonates

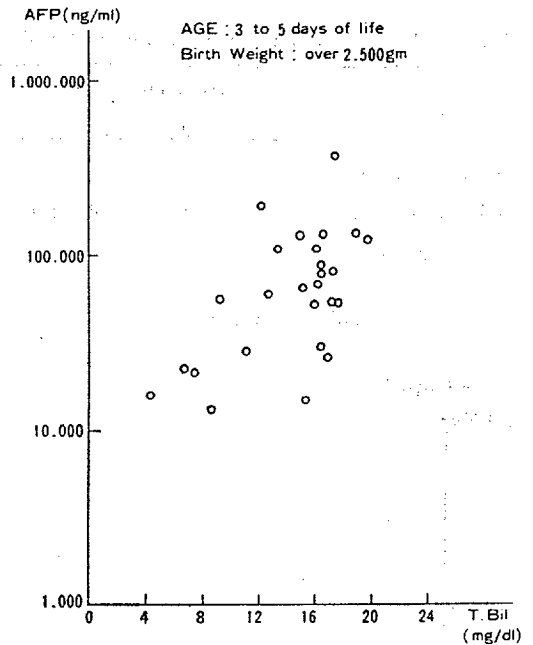


図 3



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 1.はじめに

前年度の報告書において、乳児閉塞型黄疸に於ける血清アルファフェトプロテイン値(以下,AFP)測定の意義について報告したが、今回は胆道閉鎖症の術前血清 AFP 値と、肝門部病型、術後胆汁流出の良否、術前肝機能との相関について検討し、さらに新生児生理的黄疸時の血清 AFP 値を測定し、検討したので報告する。